

現行の食料自給率目標等の検証①

平成26年3月

農林水産省

目次

食料自給率の推移	1
食料自給率目標の考え方	5
食料自給率目標等の検証①	10
食料自給力について	17
食料の供給に関する特別世論調査	21
更なる検証の方向	23
参考資料	24

食料自給率の推移

食料自給率の推移

- 食料自給率は、国内の食料消費が国産でどの程度まかなわれているかを示す指標。
- その示し方については、単純に重量で計算することができる品目別自給率と、食料全体について共通の「ものさし」で単位を揃えることにより計算する総合食料自給率の2種類。
- このうち、総合食料自給率は、熱量で換算するカロリーベースと金額で換算する生産額ベースがあり、2つの指標とも長期的に低下傾向で推移。
- また、品目別自給率は、国内での自給が可能な米の自給率が高い水準にある一方、飼料等を輸入に依存している肉類や大豆の自給率が低い水準で推移。

カロリーベース総合食料自給率

生命・健康の維持にはカロリーが不可欠であることから、供給カロリーが国内生産でどの程度まかなわれているのかを示す指標

$$\frac{1人1日当たり国産供給熱量(942kcal)}{1人1日当たり供給熱量(2,430kcal)} = 39\% \quad (H24)$$

生産額ベース総合食料自給率

国内農業の経済的価値を示す指標であり、比較的低カロリーの野菜や輸入飼料に依存する畜産物等の生産活動をより適切に反映した指標。

$$\frac{国内生産額(9.9兆円)}{国内消費仕向額(14.6兆円)} = 68\% \quad (H24)$$

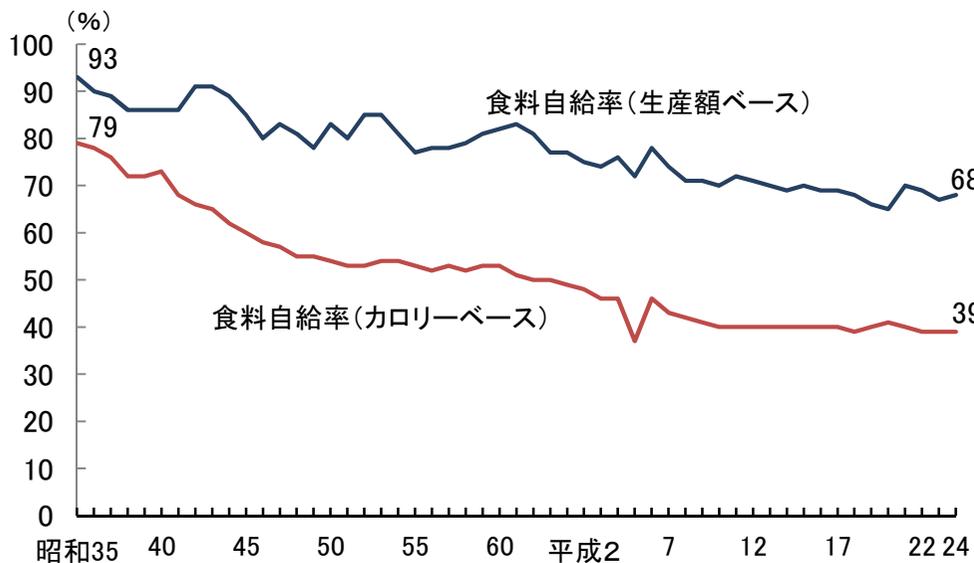
品目別自給率

例えば「小麦の自給率」など、特定の品目の自給率を示す指標(重量ベース)

(例)小麦の品目別自給率

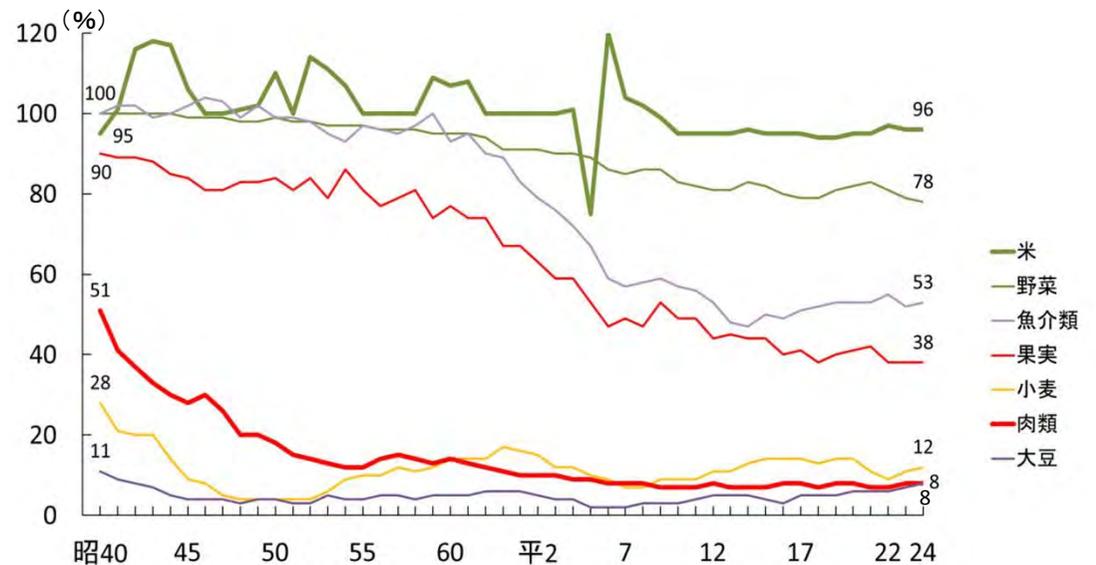
$$\frac{小麦の国内生産量(86万ト)}{小麦の国内消費仕向量(717万ト)} = 12\% \quad (H24)$$

○我が国の総合食料自給率の推移



資料:平成24年度食料需給表

○品目別自給率の推移



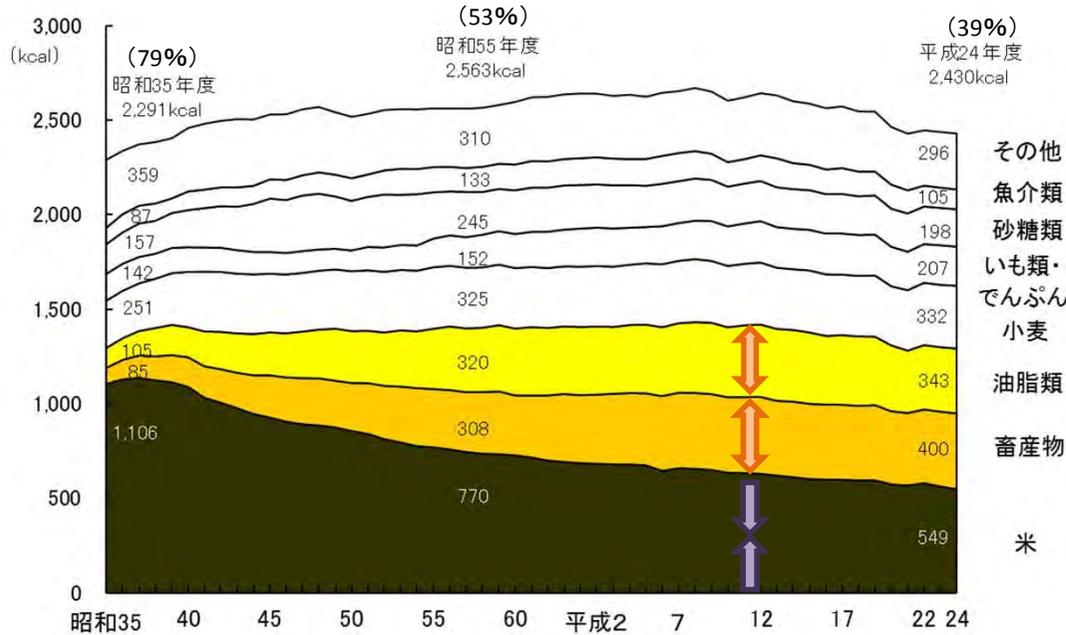
資料:平成24年度食料需給表

※肉類については、飼料自給率を考慮した品目別自給率を示す。

食料自給率低下の背景

- 食料自給率低下の背景としては、長期的に見れば、
 - ① 食生活の大きな変化により、自給率の高い米の消費が減少し、自給率の低い畜産物等の消費が増加する一方、
 - ② こうした消費の変化に国内の生産体制が対応できなかったことが大きな要因。

○品目別供給カロリーの推移



資料：平成24年度食料需給表

○食料消費構造の変化と食料自給率(カロリーベース)の変化

